

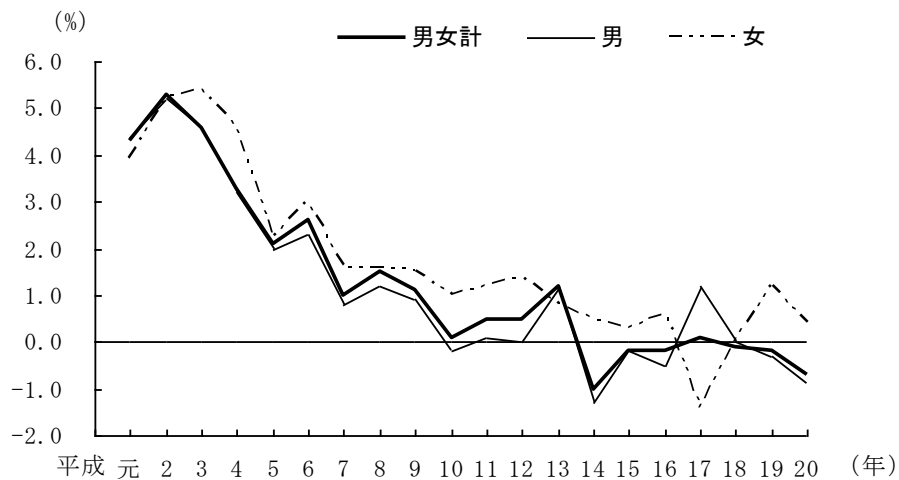
Ⅱ 調査結果の概況

1 一般労働者の賃金

(1) 賃金の推移

賃金は、男女計299.1千円（平均40.9歳、勤続11.6年）、男333.7千円（平均41.7歳、勤続13.1年）、女226.1千円（平均39.1歳、勤続8.6年）となっており、前年と比べると、男女計では0.7%、男では0.9%それぞれ低下し、女では0.4%上昇している（第1図、第1表）。

第1図 性別賃金の対前年増減率の推移



第1表 性別賃金及び対前年増減率の推移

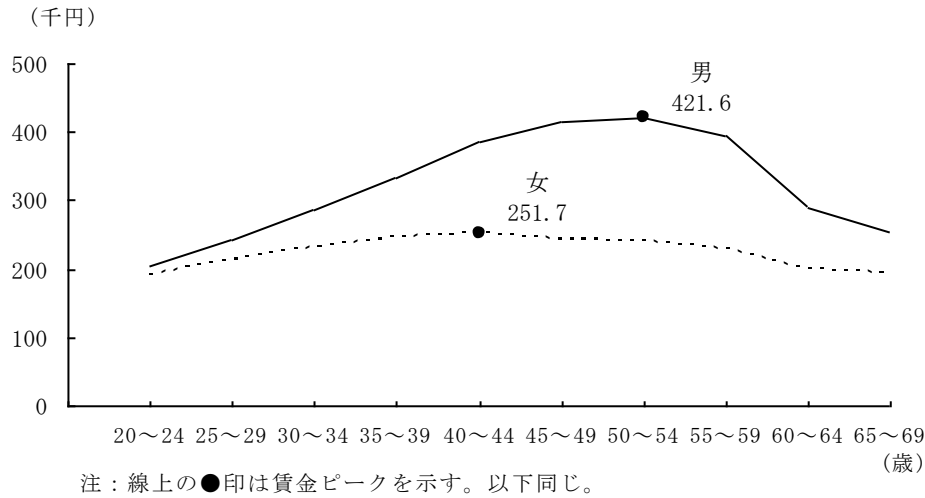
年	男女計		男		女	
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)
平成元年	241.8	4.3	276.1	4.4	166.3	3.9
2	254.7	5.3	290.5	5.2	175.0	5.2
3	266.3	4.6	303.8	4.6	184.4	5.4
4	275.2	3.3	313.5	3.2	192.8	4.6
5	281.1	2.1	319.9	2.0	197.0	2.2
6	288.4	2.6	327.4	2.3	203.0	3.0
7	291.3	1.0	330.0	0.8	206.2	1.6
8	295.6	1.5	334.0	1.2	209.6	1.6
9	298.9	1.1	337.0	0.9	212.7	1.5
10	299.1	0.1	336.4	-0.2	214.9	1.0
11	300.6	0.5	336.7	0.1	217.5	1.2
12	302.2	0.5	336.8	0.0	220.6	1.4
13	305.8	1.2	340.7	1.2	222.4	0.8
14	302.6	-1.0	336.2	-1.3	223.6	0.5
15	302.1	-0.2	335.5	-0.2	224.2	0.3
16	301.6	-0.2	333.9	-0.5	225.6	0.6
17	302.0	0.1	337.8	1.2	222.5	-1.4
18	301.8	-0.1	337.7	-0.0	222.6	0.0
19	301.1	-0.2	336.7	-0.3	225.2	1.2
20	299.1	-0.7	333.7	-0.9	226.1	0.4
平成20年 平均年齢(歳) 勤続年数(年)	40.9 11.6		41.7 13.1		39.1 8.6	

(2) 性別にみた賃金

性別に賃金カーブ※をみると、男では、年齢階級が高くなるとともに賃金も上昇し、50～54 歳で 421.6 千円（20～24 歳の賃金を 100 とすると 206）とピークになり、その後下降している。女では、40～44 歳が 251.7 千円（同 132）と最も高くなっているが、年齢階級が高くなっても賃金はそれほど変わらない。（第 2 図、第 2 表）

※賃金カーブとは、年齢(階級)とともに変化する賃金額の状況をグラフで表したものをいう。以下同じ。

第 2 図 性、年齢階級別賃金



第 2 表 性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

年齢階級	男			女		
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)
年齢計	333.7	-0.9	163	226.1	0.4	119
20～24歳	204.4	1.3	100	190.7	1.9	100
25～29	242.8	0.7	119	214.9	0.9	113
30～34	286.5	0.1	140	230.7	-0.1	121
35～39	333.9	-1.0	163	244.2	0.6	128
40～44	384.9	-1.8	188	251.7	1.2	132
45～49	414.2	-0.5	203	243.7	0.6	128
50～54	421.6	0.0	206	240.4	1.7	126
55～59	394.8	0.5	193	229.1	-0.9	120
60～64	288.1	-2.0	141	198.7	-1.4	104
65～69	254.8	-4.0	125	193.3	-1.0	101
平均年齢(歳)	41.7			39.1		
勤続年数(年)	13.1			8.6		

注：年齢計には、上掲の年齢階級に限らず、すべての年齢の者を含む。以下同じ。

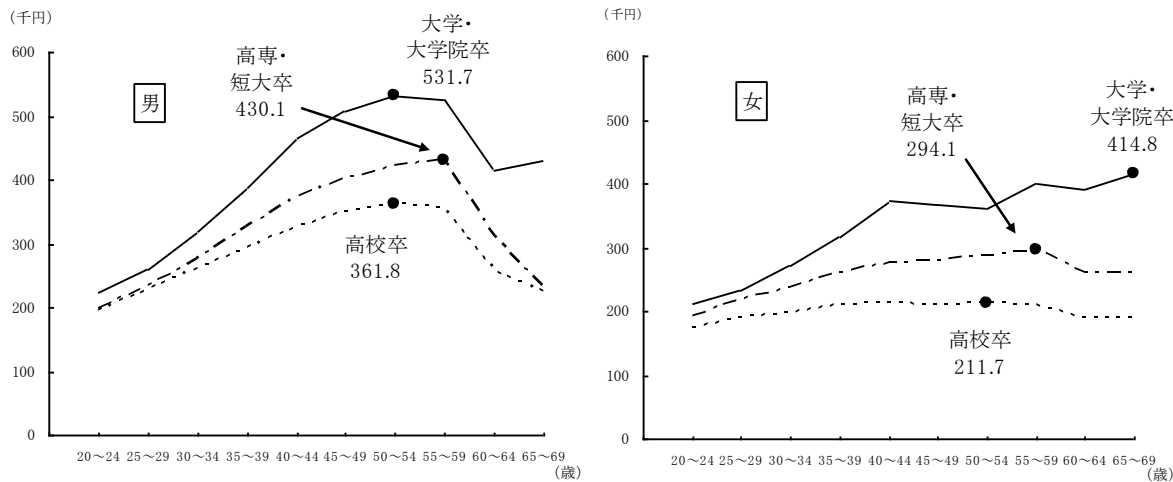
(3) 学歴別にみた賃金

学歴別に賃金をみると、男では、大学・大学院卒（399.6千円、前年比1.9%減）、高校卒（297.0千円、同0.9%減）で前年を下回っている。一方、女では、高専・短大卒（243.6千円、同1.0%増）、高校卒（200.6千円、同0.2%増）で前年を上回っている。

学歴別に賃金がピークとなる年齢階級をみると、男では、大学・大学院卒及び高校卒で50～54歳、高専・短大卒で55～59歳、女では、大学・大学院卒で65～69歳、高専・短大卒で55～59歳、高校卒で50～54歳となっている。

学歴別に賃金カーブをみると、男女いずれも大学・大学院卒の賃金カーブが急となっており、男は女に比べてその傾向が大きい。（第3図、第3表）

第3図 学歴、性、年齢階級別賃金



第3表 学歴、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

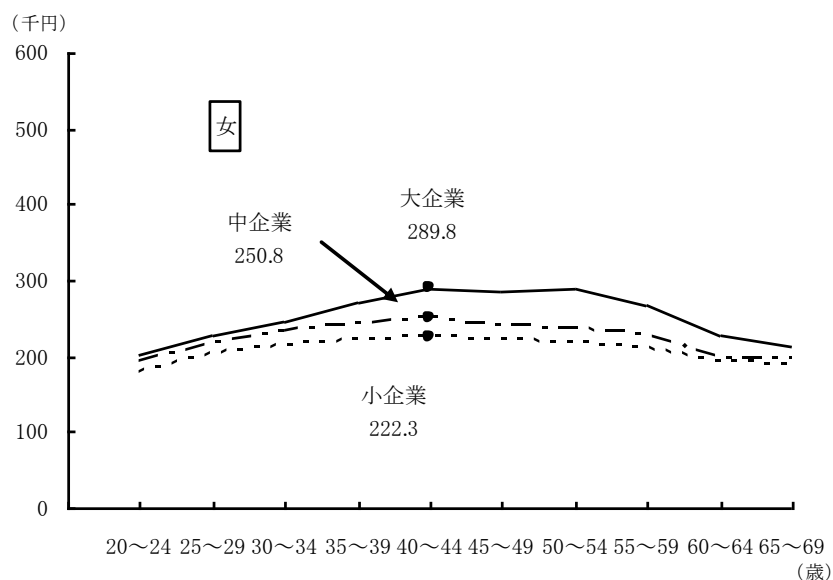
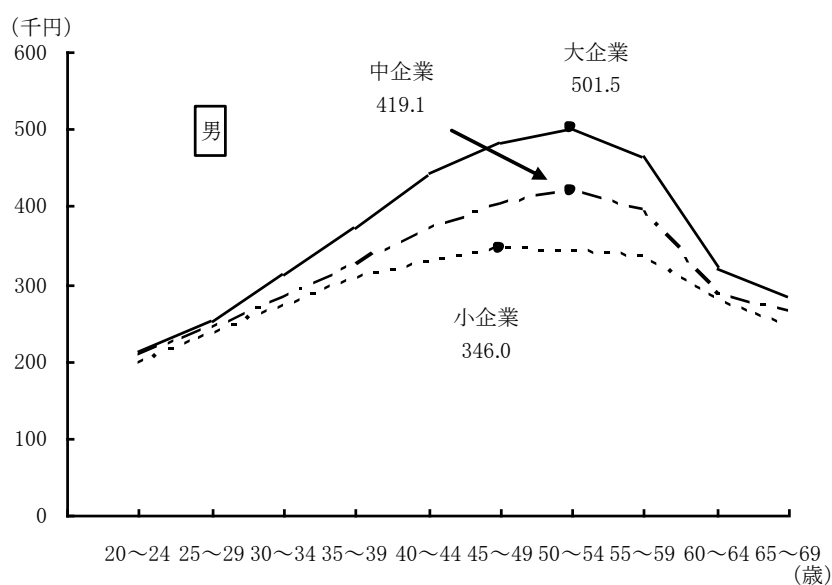
		大学・大学院卒			高専・短大卒			高校卒		
		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級 間賃金格 差 (20～24 歳=100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級 間賃金格 差 (20～24 歳=100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級 間賃金格 差 (20～24 歳=100)
男	年齢計	399.6	-1.9	179	306.5	0.6	155	297.0	-0.9	153
	20～24歳	222.9	2.3	100	197.9	1.0	100	194.4	0.3	100
	25～29	259.9	1.0	117	233.2	-0.7	118	226.0	-0.3	116
	30～34	318.6	0.1	143	274.2	1.1	139	261.0	-0.9	134
	35～39	388.3	-1.6	174	325.1	1.4	164	293.6	-0.8	151
	40～44	466.0	-3.4	209	373.4	1.6	189	325.9	-0.2	168
	45～49	507.2	-2.1	228	401.0	0.9	203	348.6	0.3	179
	50～54	531.7	-0.6	239	419.6	-2.9	212	361.8	-1.8	186
	55～59	524.6	-0.8	235	430.1	-0.8	217	356.2	-0.0	183
	60～64	414.9	-3.6	186	309.5	-5.1	156	257.6	-2.6	133
65～69	429.3	-5.2	193	228.8	-14.7	116	224.7	-5.6	116	
平均年齢(歳)		40.3			36.9			42.6		
勤続年数(年)		12.2			10.7			13.8		
女	年齢計	273.5	-2.4	130	243.6	1.0	127	200.6	0.2	115
	20～24歳	211.0	2.5	100	191.9	0.8	100	173.8	2.0	100
	25～29	233.1	-0.5	110	218.7	1.4	114	187.8	0.3	108
	30～34	271.5	-1.9	129	236.4	0.3	123	198.5	-1.0	114
	35～39	317.5	-1.3	150	258.8	0.8	135	207.6	1.3	119
	40～44	372.7	0.1	177	275.4	3.5	144	210.9	-0.1	121
	45～49	366.6	-3.1	174	276.6	0.1	144	209.8	1.2	121
	50～54	362.3	-6.5	172	287.1	0.3	150	211.7	1.1	122
	55～59	399.6	-11.1	189	294.1	-1.1	153	209.0	-0.8	120
	60～64	392.1	-7.7	186	258.8	-3.6	135	188.0	-2.1	108
65～69	414.8	-16.6	197	259.2	-15.4	135	189.0	4.8	109	
平均年齢(歳)		33.0			36.2			42.3		
勤続年数(年)		6.1			8.1			9.6		

(4) 企業規模別にみた賃金

企業規模別に賃金をみると、男では、大企業が381.8千円、中企業が324.6千円（大企業の賃金を100とすると85）、小企業が294.9千円（同77）、女では、大企業が251.0千円、中企業が225.4千円（同90）、小企業が207.7千円（同83）となっている。前年と比べると、大企業では、男が3.1%、女が0.4%それぞれ低下し、男女とも前年を下回っている。

賃金がピークとなる年齢階級を企業規模別にみると、男では、大企業及び中企業が50～54歳で、大企業501.5千円（20～24歳の賃金を100とすると237）、中企業419.1千円（同205）、小企業が45～49歳で346.0千円（同177）となっている。女でピークとなっているのは、いずれの企業規模も40～44歳で、大企業289.8千円（同144）、中企業250.8千円（同130）、小企業222.3千円（同125）となっており、男に比べ年齢階級間格差は小さい。（第4図、第4表）

第4図 企業規模、性、年齢階級別賃金



第4表 企業規模、性、年齢階級別賃金、対前年増減率、企業規模間賃金格差及び年齢階級間賃金格差

性、 年齢階級		大企業				中企業				小企業			
		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金格差		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金格差		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金格差	
				企業規模 間格差 (大企業＝ 100)	年齢階級 間格差 (20～24 歳＝100)			企業規模 間格差 (大企業＝ 100)	年齢階級 間格差 (20～24 歳＝100)			企業規模 間格差 (大企業＝ 100)	年齢階級 間格差 (20～24 歳＝100)
男	年齢計	381.8	-3.1	100	181	324.6	1.2	85	159	294.9	-0.1	77	150
	20～24歳	211.4	1.4	100	100	204.4	1.6	97	100	196.0	0.4	93	100
	25～29	253.5	-0.3	100	120	241.2	2.1	95	118	232.6	-0.2	92	119
	30～34	311.0	-0.6	100	147	279.3	1.7	90	137	271.0	-0.5	87	138
	35～39	373.6	-3.3	100	177	321.9	0.8	86	157	303.6	1.0	81	155
	40～44	443.4	-2.7	100	210	369.7	0.7	83	181	326.8	-2.5	74	167
	45～49	484.1	-3.2	100	229	400.8	1.6	83	196	346.0	1.7	71	177
	50～54	501.5	-1.6	100	237	419.1	3.0	84	205	339.6	-1.1	68	173
	55～59	465.0	-2.7	100	220	395.3	3.2	85	193	333.9	1.8	72	170
	60～64	318.9	-6.0	100	151	284.8	-1.3	89	139	277.9	-1.0	87	142
	65～69	284.4	-19.1	100	135	261.2	-1.2	92	128	244.6	-3.1	86	125
	平均年齢(歳)	40.9				41.3				43.0			
	勤続年数(年)	15.7				12.6				10.9			
女	年齢計	251.0	-0.4	100	125	225.4	1.1	90	117	207.7	0.5	83	117
	20～24歳	201.2	1.6	100	100	193.3	2.3	96	100	177.6	1.0	88	100
	25～29	227.0	0.3	100	113	215.9	1.3	95	112	201.5	1.6	89	113
	30～34	247.2	0.0	100	123	232.1	1.3	94	120	213.6	-1.6	86	120
	35～39	269.6	0.3	100	134	243.2	1.3	90	126	220.5	1.4	82	124
	40～44	289.8	2.3	100	144	250.8	1.4	87	130	222.3	0.3	77	125
	45～49	284.3	-0.8	100	141	238.7	1.9	84	123	221.3	0.4	78	125
	50～54	289.0	2.9	100	144	236.1	2.2	82	122	216.4	1.1	75	122
	55～59	268.2	-2.0	100	133	227.7	-1.6	85	118	210.8	0.3	79	119
	60～64	226.5	-8.2	100	113	195.7	-4.1	86	101	191.9	3.0	85	108
	65～69	213.8	-2.0	100	106	195.4	-1.0	91	101	187.3	-1.5	88	105
	平均年齢(歳)	37.4				38.9				40.7			
	勤続年数(年)	9.5				8.2				8.3			

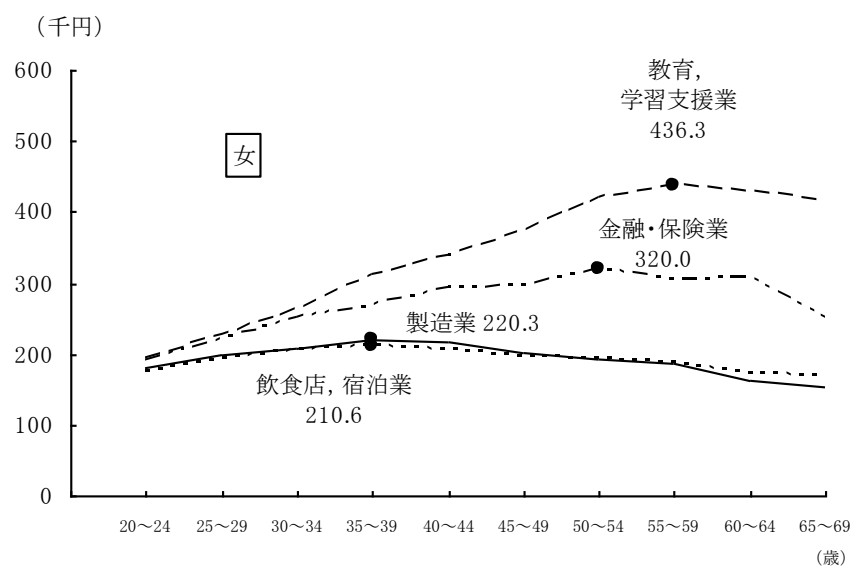
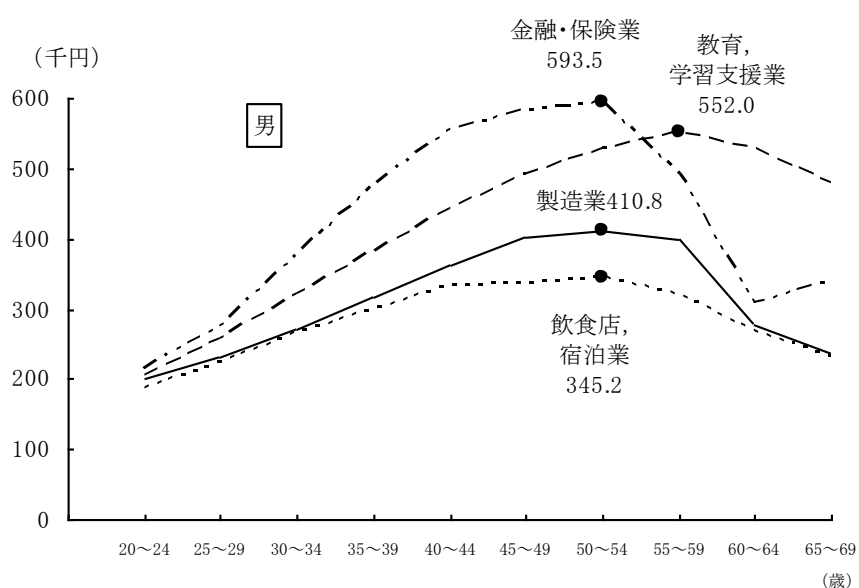
(5) 産業別にみた賃金

主な産業別に賃金をみると、男では、金融・保険業(463.5千円)が最も高く、次いで教育、学習支援業(434.1千円)となり、飲食店、宿泊業(277.6千円)が最も低くなっている。女では、教育、学習支援業(294.5千円)が最も高く、飲食店、宿泊業(188.4千円)が最も低くなっている。

産業別に賃金カーブをみると、男では、金融・保険業は50～54歳で賃金がピークとなり、その後は大きく下降している。また、飲食店、宿泊業は他の産業に比べ賃金カーブが緩やかとなっている。女では、教育、学習支援業は、年齢階級が高くなるとともにおおむね賃金も上昇しているが、製造業、飲食店、宿泊業は35～39歳でピークとなり、その後は下降している。

また、賃金カーブは、男に比べ、女は緩やかとなっている。(第5図、第5表)

第5図 産業、性、年齢階級別賃金



第5表 主な産業、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

性、 年齢階級			建設業	製造業	情報通信 業	運輸業	卸売・小売 業	金融・保険 業	飲食店、 宿泊業	医療、福 祉	教育、学 習支援業	サービス業 (他に分類 されないもの)
男	賃 金 (千 円)	年齢計	330.3	322.6	378.6	284.5	345.7	463.5	277.6	361.0	434.1	310.7
		20～24歳	210.1	199.7	221.9	207.3	208.0	213.1	185.2	198.7	205.0	203.7
		25～29	246.4	232.2	256.6	238.9	255.3	274.9	220.9	237.0	257.1	238.6
		30～34	286.9	272.0	315.0	265.3	299.9	374.7	264.3	284.7	320.7	280.2
		35～39	326.9	316.0	372.5	293.3	345.3	475.8	298.2	362.0	381.8	325.2
		40～44	366.2	363.9	467.2	310.7	397.2	554.8	332.2	435.9	440.8	371.9
		45～49	379.1	402.3	503.4	325.4	425.4	582.7	335.9	516.8	488.9	399.3
		50～54	389.6	410.8	550.0	322.4	446.5	593.5	345.2	535.2	526.9	385.2
		55～59	388.6	399.3	532.5	298.8	433.3	489.3	319.9	491.1	552.0	353.7
		60～64	313.7	276.2	361.9	222.4	310.4	306.2	269.5	387.4	525.6	254.5
		65～69	266.5	238.1	* 446.5	205.0	241.7	336.9	232.9	* 482.0	477.8	207.3
	対前年 増減率(%)		-1.7	-1.8	-5.4	-1.6	2.8	-2.9	1.2	1.7	-1.8	-2.8
	平均年齢 (歳)		43.7	41.4	38.1	45.0	40.4	41.7	39.2	39.1	45.3	42.0
	勤続年数 (年)		13.7	14.8	12.3	12.5	13.2	15.4	8.7	8.3	13.9	10.0
	(20～24歳 5～24歳 間賃金格差)	年齢計	157	162	171	137	166	218	150	182	212	153
		20～24歳	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		25～29	117	116	116	115	123	129	119	119	125	117
		30～34	137	136	142	128	144	176	143	143	156	138
		35～39	156	158	168	141	166	223	161	182	186	160
		40～44	174	182	211	150	191	260	179	219	215	183
		45～49	180	201	227	157	205	273	181	260	238	196
		50～54	185	206	248	156	215	279	186	269	257	189
		55～59	185	200	240	144	208	230	173	247	269	174
		60～64	149	138	163	107	149	144	146	195	256	125
		65～69	127	119	201	99	116	158	126	243	233	102
女	賃 金 (千 円)	年齢計	216.3	198.0	272.3	207.6	214.8	259.3	188.4	243.9	294.5	213.4
		20～24歳	194.8	179.6	213.1	182.0	187.0	189.3	174.7	200.2	192.4	183.7
		25～29	204.3	199.0	234.7	195.8	209.9	219.3	192.5	227.6	225.1	210.7
		30～34	210.5	209.4	271.6	207.2	223.0	248.9	206.1	242.1	262.8	226.6
		35～39	220.8	220.3	301.2	230.8	234.9	269.7	210.6	259.3	311.9	230.4
		40～44	226.2	217.0	332.0	229.2	245.8	293.2	203.8	267.7	338.9	237.9
		45～49	232.2	203.5	367.0	219.1	225.6	294.3	195.9	260.2	373.2	229.5
		50～54	223.5	193.4	345.5	216.7	221.4	320.0	192.9	266.6	417.9	211.9
		55～59	229.4	187.5	331.0	204.4	204.4	305.6	187.7	266.7	436.3	208.2
		60～64	217.1	162.6	* 268.2	193.6	178.0	306.7	171.1	228.9	427.8	174.0
		65～69	* 211.4	152.7	* 389.6	168.9	196.0	251.0	167.8	236.1	415.5	148.8
	対前年 増減率(%)		2.1	0.2	-3.4	-1.1	-0.4	0.5	2.1	0.7	-1.8	-2.5
	平均年齢 (歳)		40.1	42.0	33.8	39.8	37.8	38.5	39.5	38.9	37.0	38.6
	勤続年数 (年)		10.0	10.9	7.7	8.9	8.4	10.4	6.4	7.6	9.4	6.3
	(20～24歳 5～24歳 間賃金格差)	年齢計	111	110	128	114	115	137	108	122	153	116
		20～24歳	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		25～29	105	111	110	108	112	116	110	114	117	115
		30～34	108	117	127	114	119	131	118	121	137	123
		35～39	113	123	141	127	126	142	121	130	162	125
		40～44	116	121	156	126	131	155	117	134	176	130
		45～49	119	113	172	120	121	155	112	130	194	125
		50～54	115	108	162	119	118	169	110	133	217	115
		55～59	118	104	155	112	109	161	107	133	227	113
		60～64	111	91	126	106	95	162	98	114	222	95
		65～69	109	85	183	93	105	133	96	118	216	81

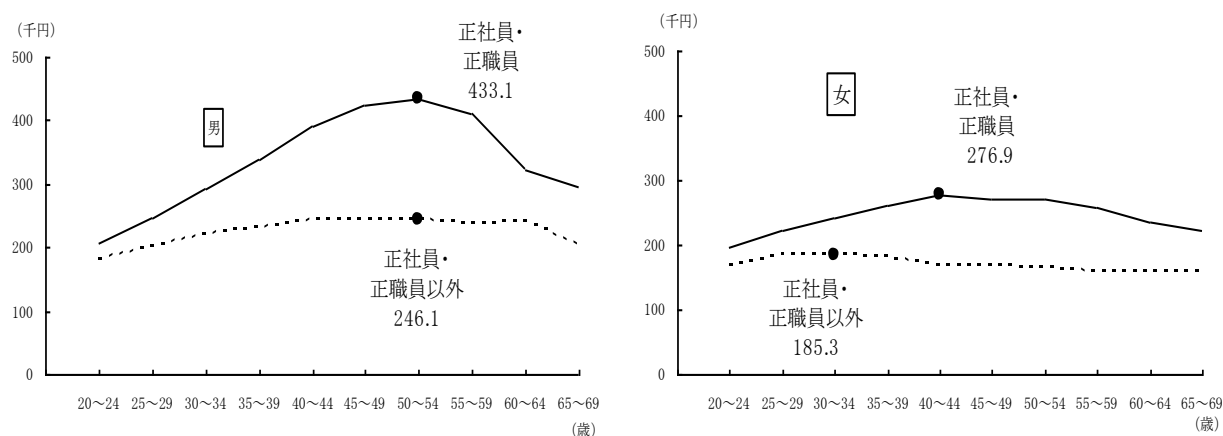
(6) 雇用形態別の賃金

雇用形態別の賃金をみると、正社員・正職員316.5千円（平均40.4歳、勤続12.5年）、正社員・正職員以外194.8千円（平均43.8歳、勤続6.3年）となっている。男女別にみると、男では、正社員・正職員345.3千円（前年比0.6%減）、正社員・正職員以外224.0千円（同0.1%減）、女では、正社員・正職員243.9千円（同0.2%増）、正社員・正職員以外170.5千円（同1.0%増）となっている。

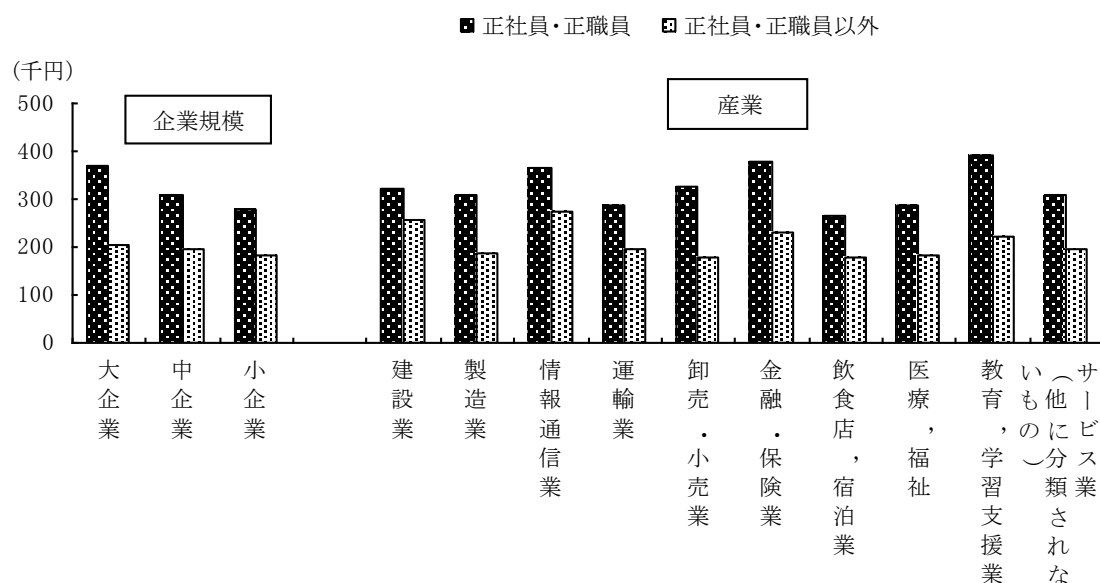
年齢階級別にみると、正社員・正職員以外は、男女いずれも年齢階級が高くなっても賃金の上昇があまり見られない。

正社員・正職員の賃金を100とすると、正社員・正職員以外の賃金は、男で65、女で70となっている。なお、企業規模別では、大企業で55、主な産業別では、卸売・小売業で54と、賃金格差が大きくなっている。（第6図、第7図、第6表、第7表、第8表）

第6図 雇用形態、性、年齢階級別賃金



第7図 雇用形態、企業規模・産業別賃金



第6表 雇用形態、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び雇用形態間賃金格差

年齢階級	男女計					男					女				
	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差(正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差(正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差(正社員・正職員=100)
	賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)		賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)		賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)	
年齢計	316.5	-0.5	194.8	1.0	62	345.3	-0.6	224.0	-0.1	65	243.9	0.2	170.5	1.0	70
20～24歳	202.2	1.7	172.9	-0.1	86	207.8	1.6	180.4	-1.3	87	195.8	1.9	167.4	1.0	85
25～29	238.5	1.1	190.9	-0.8	80	247.3	0.8	201.8	-2.3	82	223.0	1.1	182.3	0.9	82
30～34	278.1	0.4	200.6	0.8	72	291.4	0.4	221.2	-0.4	76	242.9	0.1	185.3	0.9	76
35～39	321.6	-0.6	200.7	2.4	62	339.9	-0.7	231.7	-0.0	68	262.7	0.1	180.7	2.1	69
40～44	364.5	-1.4	194.9	2.9	53	391.9	-1.8	244.4	4.7	62	276.9	0.6	169.1	-1.2	61
45～49	384.7	-0.9	189.8	3.5	49	422.7	-0.4	242.4	3.8	57	270.4	-0.5	167.4	1.8	62
50～54	393.9	0.2	191.3	4.2	49	433.1	0.1	246.1	4.1	57	271.8	1.3	164.2	3.0	60
55～59	374.1	0.4	192.8	-1.4	52	410.4	1.1	238.1	-3.7	58	258.5	-1.1	158.7	1.1	61
60～64	303.1	-0.9	215.5	-1.5	71	324.0	-0.9	238.8	-0.9	74	236.8	1.2	157.1	-2.8	66
65～69	275.1	-3.4	191.0	-2.7	69	294.8	-2.9	204.7	-4.3	69	223.9	-3.2	158.8	7.4	71
平均年齢(歳)	40.4		43.8			41.2		46.0			38.2		42.0		
勤続年数(年)	12.5		6.3			13.7		7.0			9.5		5.7		

第7表 雇用形態、性、企業規模別賃金、対前年増減率及び雇用形態間賃金格差

企業規模	男女計					男					女				
	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差(正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差(正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差(正社員・正職員=100)
	賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)		賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)		賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)	
大企業	369.1	-2.6	204.2	-0.4	55	397.2	-2.9	228.5	-2.6	58	276.7	-1.1	183.0	0.2	66
中企業	308.4	1.0	194.9	3.6	63	336.5	1.4	226.8	4.0	67	244.6	0.8	168.8	1.7	69
小企業	277.1	0.4	184.4	-0.9	67	302.2	0.2	214.7	-3.1	71	219.9	0.6	159.8	1.6	73

第8表 雇用形態、性、主な産業別賃金、対前年増減率及び雇用形態間賃金格差

産業	男女計					男					女				
	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差(正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差(正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差(正社員・正職員=100)
	賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)		賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)		賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)	
産業計	316.5	-0.5	194.8	1.0	62	345.3	-0.6	224.0	-0.1	65	243.9	0.2	170.5	1.0	70
建設業	322.9	-1.4	256.8	4.9	80	336.3	-1.5	271.3	1.3	81	222.2	1.1	169.4	3.3	76
製造業	308.3	-1.5	185.6	2.6	60	331.3	-1.7	219.5	0.6	66	214.2	-0.7	152.9	2.0	71
情報通信業	364.0	-5.3	273.2	10.1	75	382.3	-5.5	323.9	6.9	85	286.3	-5.3	223.9	5.5	78
運輸業	286.9	-1.0	194.2	-0.7	68	292.9	-1.2	208.2	-0.8	71	228.3	0.3	157.1	-2.8	69
卸売・小売業	326.6	3.2	177.9	0.4	54	355.9	3.2	212.2	-3.0	60	238.9	-0.9	159.8	-0.1	67
金融・保険業	377.1	-2.3	231.2	-0.9	61	469.1	-2.8	310.1	0.3	66	265.5	0.8	194.4	-3.3	73
飲食店、宿泊業	266.9	1.8	176.8	2.0	66	292.5	1.2	198.9	0.3	68	206.0	1.6	161.8	2.8	79
医療、福祉	286.3	2.0	182.5	-0.3	64	376.0	2.3	209.7	-5.0	56	254.0	1.0	175.9	1.0	69
教育、学習支援業	391.9	-1.6	222.6	-1.9	57	446.2	-1.5	255.1	-4.5	57	308.3	-2.0	199.2	-0.5	65
サービス業(他に分類されないもの)	309.2	-2.5	197.8	-2.8	64	334.6	-2.8	213.0	-2.2	64	237.0	-1.2	185.0	-2.8	78

注:産業計には、上掲のほか、鉱業・電気・ガス・熱供給・水道業、不動産業、複合サービス事業を含む。

(7) 賃金の分布

労働者の分布を男女別にみると、男では、年齢階級が高くなるとともにおおむね賃金階級の高い層に労働者が分布している。一方、女では、35～39歳までは年齢階級が高くなるとともにおおむね賃金階級の高い層に労働者が分布しているが、それ以降は低い賃金階級に多く分布している。

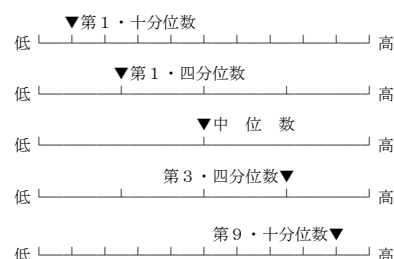
賃金の散らばりをみると、男女いずれも年齢階級が高くなるとともにおおむね大きくなっている。また、学歴別に分位数で広がりを見ると、男女とも大学・大学院卒が他の学歴に比べ、大きく広がっている。（第9表、第8図）

第9表 賃金階級、性、年齢階級別労働者数割合（2－1）

賃 金 階 級	男										
	年齢計	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳
計	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
～ 99.9 (千円)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
100.0 ～ 119.9	0.2	0.5	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.6	1.4
120.0 ～ 139.9	0.5	1.0	0.6	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.5	1.7	4.0
140.0 ～ 159.9	1.3	2.6	1.3	0.8	0.5	0.5	0.6	0.8	1.4	4.1	7.3
160.0 ～ 179.9	2.6	6.9	3.0	1.6	1.1	0.9	0.9	1.4	2.1	7.6	11.4
180.0 ～ 199.9	4.4	15.7	5.9	2.9	1.9	1.6	1.5	2.0	3.0	9.2	12.6
200.0 ～ 219.9	5.6	21.1	10.2	5.1	2.9	2.1	2.0	2.3	3.2	8.8	10.0
220.0 ～ 239.9	7.5	23.5	16.0	8.0	4.7	3.2	2.7	3.2	4.0	9.5	9.3
240.0 ～ 259.9	7.6	13.7	17.5	10.8	5.9	4.1	3.3	3.2	4.3	7.7	8.3
260.0 ～ 279.9	7.6	7.3	15.1	12.4	7.9	4.7	4.0	4.0	4.4	7.7	6.4
280.0 ～ 299.9	6.9	3.2	10.5	12.1	8.3	5.7	4.5	4.1	4.6	5.5	4.3
300.0 ～ 319.9	6.4	1.7	6.5	10.7	9.6	6.1	5.1	4.4	4.7	4.9	3.6
320.0 ～ 339.9	6.2	0.8	4.1	9.4	9.7	7.0	5.5	5.2	5.2	5.1	3.3
340.0 ～ 359.9	5.4	0.8	2.6	6.8	8.6	7.1	5.6	5.0	5.3	3.5	2.3
360.0 ～ 399.9	4.8	0.6	2.1	4.5	7.0	6.8	5.9	5.1	5.1	3.1	1.9
400.0 ～ 449.9	8.1	0.5	2.0	6.4	10.7	12.6	11.9	10.7	9.4	4.2	2.9
450.0 ～ 499.9	7.6	0.1	1.2	3.8	9.0	11.8	12.8	12.0	11.2	4.2	2.8
500.0 ～ 599.9	5.2	0.1	0.5	1.6	4.4	8.5	9.6	10.0	8.7	2.8	1.5
600.0 ～ 699.9	6.2	0.1	0.5	1.4	4.4	9.1	12.2	12.5	11.2	4.2	1.7
700.0 ～ 799.9	3.0	—	0.2	0.7	1.6	4.1	6.0	6.7	5.7	2.5	2.0
800.0 ～ 899.9	1.4	0.0	0.0	0.3	0.7	1.9	2.7	3.3	2.7	1.4	1.3
900.0 ～ 999.9	0.7	—	0.0	0.1	0.3	0.8	1.4	1.7	1.3	0.7	0.8
1000.0 ～ 1199.9	0.3	—	0.0	0.1	0.1	0.4	0.6	0.8	0.6	0.3	0.2
1200.0 ～	0.3	—	0.0	0.1	0.2	0.4	0.5	0.7	0.5	0.5	0.4
1200.0 ～	0.2	—	0.0	0.0	0.1	0.3	0.5	0.6	0.4	0.2	0.5
平 均 値 (千円)	333.7	204.4	242.8	286.5	333.9	384.9	414.2	421.6	394.8	288.1	254.8
第1・十分位数 (千円)	183.9	157.9	177.0	196.9	214.2	226.7	232.6	219.0	197.5	151.1	134.3
第1・四分位数 (千円)	227.8	178.3	205.2	231.7	259.5	285.9	300.3	296.4	267.6	183.7	161.4
中 位 数 (千円)	298.1	201.8	234.9	273.0	314.0	359.5	386.5	393.0	367.5	242.2	206.8
第3・四分位数 (千円)	399.8	224.8	269.3	322.1	382.5	451.8	493.3	507.6	483.4	333.6	280.7
第9・十分位数 (千円)	525.3	252.8	315.3	384.6	467.6	566.1	622.1	647.6	617.4	493.3	413.4
十分位分散係数	0.57	0.24	0.29	0.34	0.40	0.47	0.50	0.55	0.57	0.71	0.67
四分位分散係数	0.29	0.12	0.14	0.17	0.20	0.23	0.25	0.27	0.29	0.31	0.29

注： 1) 分位数とは、分布の形を示す値である。具体的には、全労働者を賃金の低い者から高い者へと一列に並べて、全労働者の所定の何番目かに該当する者の賃金である。図示すれば下図のとおりである。

- 第1・十分位数 …… 低い方から数えて全体の10分の1番目に該当する者の賃金
- 第1・四分位数 …… 低い方から数えて全体の4分の1番目に該当する者の賃金
- 中 位 数 …… 低い方（あるいは高い方）から数えて全体の2分の1番目に該当する者の賃金
- 第3・四分位数 …… 高い方から数えて全体の4分の1番目に該当する者の賃金
- 第9・十分位数 …… 高い方から数えて全体の10分の1番目に該当する者の賃金



2) 分散係数は、分布の広がりを示す指標の一つであり、次の算式により計算された数値をいう。

一般に、その値が小さいほど分布の広がりの程度が小さいことを示す。

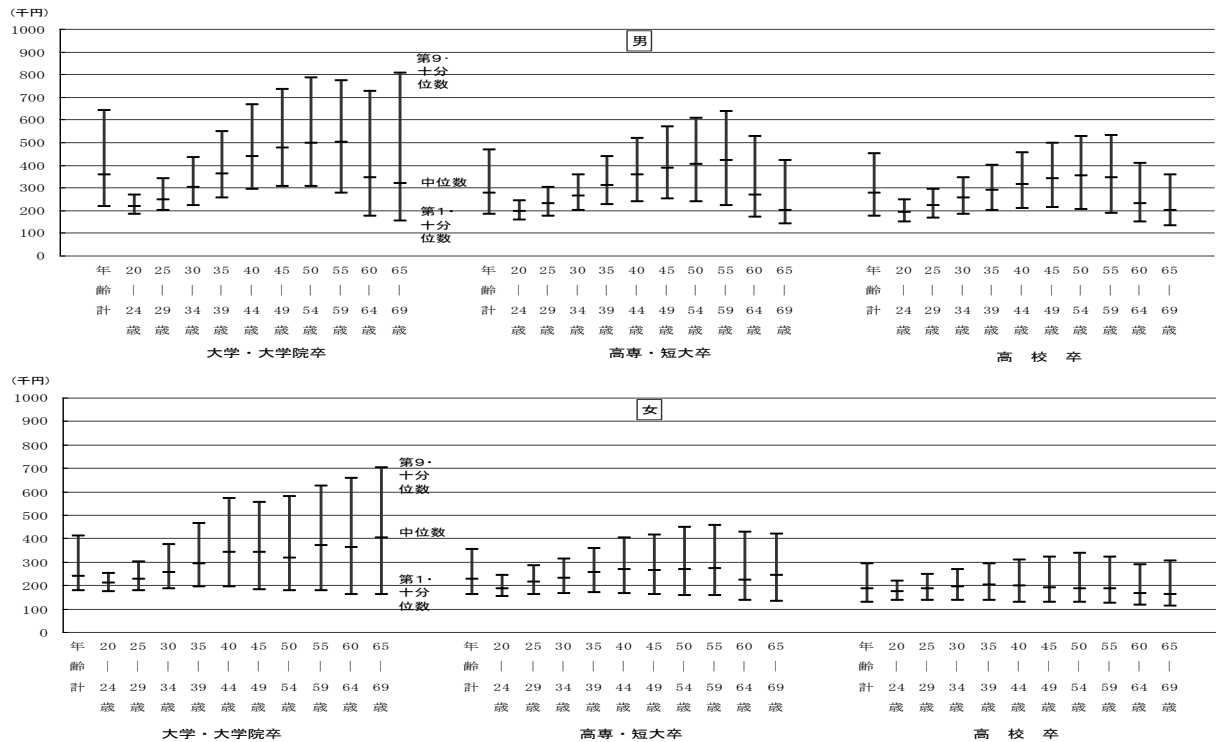
$$\text{○ 十分位分散係数} = \frac{\text{第9・十分位数} - \text{第1・十分位数}}{2 \times \text{中位数}}$$

$$\text{○ 四分位分散係数} = \frac{\text{第3・四分位数} - \text{第1・四分位数}}{2 \times \text{中位数}}$$

第9表 賃金階級、性、年齢階級別労働者数割合（2－2）

賃 金 階 級	女										
	年齢計	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳
計	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
～ 99.9 (千円)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
100.0 ～ 119.9	1.2	0.4	0.4	0.8	1.2	1.4	1.5	1.8	2.0	3.2	4.9
120.0 ～ 139.9	2.9	1.7	1.3	1.7	2.0	2.8	3.4	4.1	4.8	8.7	10.8
140.0 ～ 159.9	6.4	4.8	3.7	4.0	4.5	6.0	7.4	8.5	10.3	15.7	17.0
160.0 ～ 179.9	10.5	13.3	7.8	6.9	7.5	9.1	10.8	11.9	13.0	17.7	18.4
180.0 ～ 199.9	12.7	21.9	12.4	9.8	9.2	9.6	10.2	11.2	12.5	13.2	11.7
200.0 ～ 219.9	12.3	20.9	15.6	12.0	9.3	8.9	9.3	10.1	9.8	10.2	6.9
220.0 ～ 239.9	11.6	16.7	17.5	13.1	10.1	8.8	8.8	8.1	7.9	6.6	6.8
240.0 ～ 259.9	9.5	10.6	13.9	12.7	10.0	7.6	7.4	6.9	6.4	4.6	1.9
260.0 ～ 279.9	7.5	4.9	10.6	11.0	9.8	7.3	6.5	5.2	5.2	3.0	4.4
280.0 ～ 299.9	5.8	2.7	6.5	8.3	8.7	7.0	5.6	4.6	4.8	2.3	2.9
300.0 ～ 319.9	4.3	1.0	4.2	6.2	6.4	5.5	4.7	4.1	3.6	2.2	2.5
320.0 ～ 359.9	3.4	0.6	2.2	4.4	5.7	4.6	4.4	3.8	3.5	2.3	3.0
360.0 ～ 399.9	4.5	0.4	2.1	4.5	7.0	7.8	6.7	5.9	5.3	2.9	2.4
400.0 ～ 449.9	2.7	0.1	1.0	2.3	3.9	4.9	4.8	4.3	3.0	1.5	1.2
450.0 ～ 499.9	1.9	0.1	0.4	1.3	1.8	3.9	3.7	3.2	2.8	1.8	1.4
500.0 ～ 599.9	1.0	0.0	0.1	0.5	1.0	1.9	1.9	2.2	1.8	1.0	1.0
600.0 ～ 699.9	1.0	0.0	0.2	0.3	1.0	1.5	1.8	2.6	1.8	1.4	1.1
700.0 ～ 799.9	0.4	—	0.0	0.1	0.3	0.7	0.6	0.8	0.9	0.8	1.0
800.0 ～ 899.9	0.2	—	0.0	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.5
900.0 ～ 999.9	0.1	—	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1
1000.0 ～	0.0	—	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.2
平均 値 (千円)	0.1	—	—	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0
第1・十分位数 (千円)	226.1	190.7	214.9	230.7	244.2	251.7	243.7	240.4	229.1	198.7	193.3
第1・四分位数 (千円)	138.7	145.9	153.1	151.4	146.3	139.4	134.6	130.7	127.1	116.5	110.0
中 位 数 (千円)	166.5	164.8	179.2	183.1	181.2	172.1	163.7	157.8	152.0	136.9	131.2
第3・四分位数 (千円)	206.6	186.9	210.0	222.4	232.3	228.9	217.1	205.4	195.0	166.0	158.8
第9・十分位数 (千円)	261.2	213.4	244.1	267.0	287.4	303.9	297.2	291.7	273.3	218.2	213.3
十分位分散係数	334.7	239.4	280.8	316.1	349.4	386.8	387.9	392.6	373.4	320.4	311.8
四分位分散係数	0.47	0.25	0.30	0.37	0.44	0.54	0.58	0.64	0.63	0.61	0.64
	0.23	0.13	0.15	0.19	0.23	0.29	0.31	0.33	0.31	0.24	0.26

第8図 学歴、性、年齢階級別第1・十分位数、中位数及び第9・十分位数



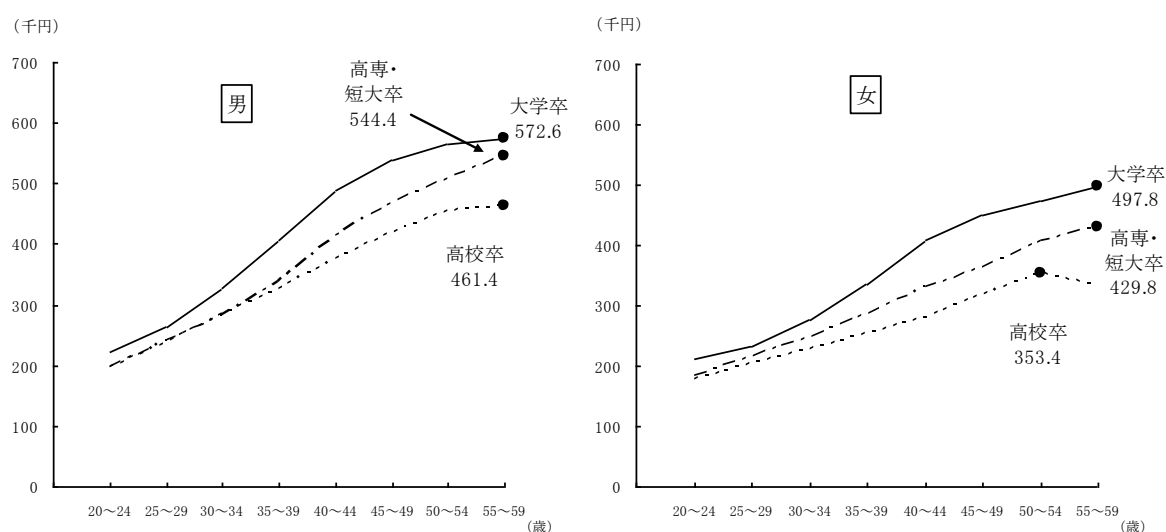
注：第9表 注：1）参照。

(8) 標準労働者の賃金

標準労働者について、学歴別に賃金カーブをみると、男では、すべての学歴で55～59歳が賃金のピークとなっている。女では、大学卒及び高専・短大卒で55～59歳、高校卒で50～54歳が賃金のピークとなっている。

学歴別に20～24歳の賃金を100とすると、男では、賃金がピークとなる55～59歳で、大学卒が257、高専・短大卒が278、高校卒が235、女では、大学卒及び高専・短大卒で賃金がピークとなる55～59歳で、大学卒が236、高専・短大卒が234、高校卒で賃金がピークとなる50～54歳で201となっている。（第9図、第10表）

第9図 標準労働者の学歴、性、年齢階級別賃金



第10表 標準労働者の学歴、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

性、 年齢階級		大学卒			高専・短大卒			高校卒		
		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)
男	年齢計	397.3	-2.2	178	306.8	2.4	157	333.0	-1.8	170
	20～24歳	222.7	2.5	100	195.7	1.3	100	196.0	-0.8	100
	25～29	263.6	1.0	118	239.2	1.1	122	237.6	0.3	121
	30～34	326.8	-0.5	147	281.3	0.5	144	284.3	1.3	145
	35～39	407.2	-1.6	183	336.4	-1.5	172	325.0	-1.6	166
	40～44	488.1	-1.7	219	411.6	4.3	210	376.2	-2.4	192
	45～49	537.6	-1.6	241	469.7	4.9	240	419.1	-2.2	214
	50～54	564.9	-1.7	254	506.8	-3.6	259	454.6	-1.7	232
	55～59	572.6	-3.0	257	544.4	-1.5	278	461.4	-2.0	235
女	年齢計	255.6	0.6	121	236.0	1.1	129	229.3	-0.3	130
	20～24歳	211.1	2.7	100	183.5	0.8	100	176.1	0.1	100
	25～29	233.7	0.8	111	216.1	0.8	118	202.0	0.9	115
	30～34	276.8	0.7	131	248.0	1.6	135	227.5	-2.2	129
	35～39	335.3	-3.3	159	285.7	0.2	156	253.5	-0.2	144
	40～44	410.1	-0.5	194	328.7	1.1	179	278.4	-2.9	158
	45～49	449.6	-2.8	213	361.3	0.1	197	317.6	0.4	180
	50～54	472.3	3.9	224	405.8	1.8	221	353.4	3.9	201
	55～59	497.8	-6.8	236	429.8	2.7	234	332.0	-2.1	189

(9) 製造業における労働者の種類別にみた賃金

製造業について、賃金がピークとなる年齢階級を労働者の種類別にみると、男では、生産労働者、管理・事務・技術労働者ともに50～54歳で、それぞれ330.5千円、493.6千円、女では、生産労働者が35～39歳で183.5千円、管理・事務・技術労働者が40～44歳で260.1千円となっている（第11表）。

第11表 製造業の労働者の種類、性、年齢階級別賃金及び対前年増減率

年齢階級	男				女			
	生産労働者		管理・事務・技術労働者		生産労働者		管理・事務・技術労働者	
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)
年齢計	271.8	-1.1	389.6	-1.7	171.6	1.2	235.3	-1.5
20～24歳	195.6	-0.1	213.0	1.0	166.3	1.3	194.0	2.9
25～29	221.4	-0.2	250.1	0.2	178.5	2.1	214.9	0.3
30～34	253.4	0.3	300.5	0.0	180.9	0.1	232.4	1.7
35～39	279.6	0.0	357.2	-0.7	183.5	1.4	250.5	-3.8
40～44	303.7	-0.9	420.9	-2.1	178.0	-0.2	260.1	-1.0
45～49	321.4	-0.3	471.0	-2.4	172.5	2.1	252.8	-3.1
50～54	330.5	-1.6	493.6	-1.3	170.0	2.3	251.3	-8.3
55～59	330.3	-0.2	488.2	-1.1	169.6	0.8	248.4	-1.9
60～64	240.4	-2.2	337.6	-5.6	152.2	2.9	209.1	-5.8
平均年齢(歳)	40.4		42.7		44.4		38.6	
勤続年数(年)	13.4		16.6		10.7		11.3	

(10) 役職別にみた賃金

企業全体の常用労働者が100人以上の企業について、役職別の賃金をみると、男では、部長級649.2千円（前年比1.1%減）、課長級519.2千円（同1.9%減）、係長級394.2千円（同0.4%増）、女では、部長級613.7千円（同3.2%減）、課長級444.2千円（同2.2%減）、係長級350.4千円（同0.1%増）となっており、男女とも、部長級、課長級で前年を下回っている（第12表）。

第12表 役職、性別賃金、対前年増減率、役職・非役職間賃金格差及び平均年齢
（企業規模100人以上）

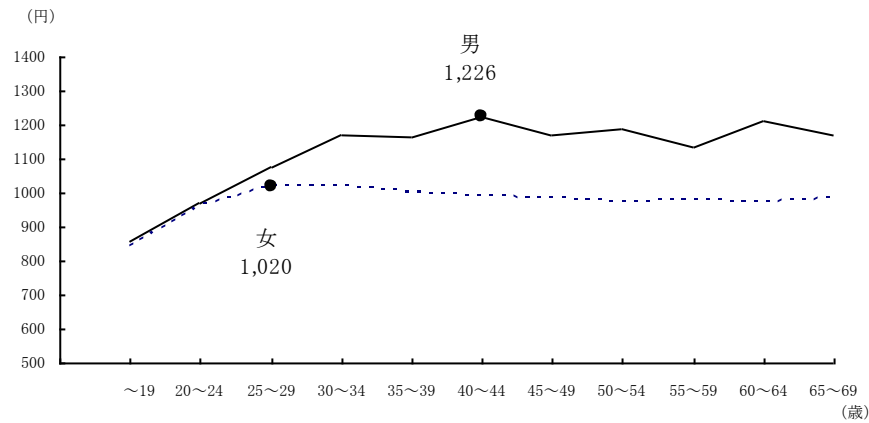
役職	男				女			
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	役職・非役 職間賃金 格差(非役 職者20～ 24歳=100)	平均 年齢 (歳)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	役職・非役 職間賃金 格差(非役 職者20～ 24歳=100)	平均 年齢 (歳)
部長級	649.2	-1.1	309	51.7	613.7	-3.2	306	51.3
課長級	519.2	-1.9	247	47.1	444.2	-2.2	221	46.9
係長級	394.2	0.4	188	43.1	350.4	0.1	175	43.6
非役職者 (20～24歳)	209.8	1.7	100		200.8	2.0	100	

2 短時間労働者の賃金

(1) 年齢階級別にみた賃金

短時間労働者の1時間当たり賃金は、男1,071円（前年比1.3%減）、女975円（同1.4%増）となっている。女では、25～29歳が1,020円でピークとなっており、40歳台以降は900円台となっている。（第10図、第13表）

第10図 短時間労働者の性、年齢階級別1時間当たり賃金



第13表 短時間労働者の年齢階級、性別1時間当たり賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

年齢階級	男			女		
	1時間 当たり 賃金(円)	対前年 増減率 (%)	年齢階 級間賃 金格差 (20～24歳 =100)	1時間 当たり 賃金(円)	対前年 増減率 (%)	年齢階 級間賃 金格差 (20～24歳 =100)
年齢計	1,071	-1.3	110	975	1.4	102
～19歳	858	0.2	88	841	1.0	88
20～24	971	0.0	100	958	2.9	100
25～29	1,077	1.1	111	1,020	2.0	106
30～34	1,168	-4.3	120	1,015	0.6	106
35～39	1,162	0.1	120	1,002	0.6	105
40～44	1,226	0.1	126	987	0.4	103
45～49	1,170	-3.5	120	984	2.3	103
50～54	1,188	-1.5	122	971	1.3	101
55～59	1,135	-1.6	117	977	2.0	102
60～64	1,210	-1.5	125	972	1.8	101
65～69	1,169	-2.2	120	983	2.8	103
平均年齢(歳)	39.7			44.2		
平均実労働日数(日)	15.8			17.5		
平均1日当たり所定内実労働時間数(時間)	5.3			5.2		
勤続年数(年)	3.9			5.0		

(2) 企業規模別にみた賃金

企業規模別に1時間当たり賃金をみると、男では、大企業が1,015円（前年比1.4%減）、中企業が1,118円（同1.5%増）、小企業が1,104円（同2.1%減）で、大企業及び小企業で前年を下回り、女では、大企業が964円（同0.6%増）、中企業が998円（同2.5%増）、小企業が969円（同1.4%増）で、すべての企業規模で前年を上回っている。

また、男女とも、中企業及び小企業の賃金は、大企業を上回っている。（第14表）

第14表 短時間労働者の企業規模、性別1時間当たり賃金、対前年増減率及び企業規模間賃金格差

企業規模	男			女		
	1時間 当たり 賃金(円)	対前年 増減率 (%)	企業規模 間賃金格 差(大企業 =100)	1時間 当たり 賃金(円)	対前年 増減率 (%)	企業規模 間賃金格 差(大企業 =100)
大 企 業	1,015	-1.4	100	964	0.6	100
中 企 業	1,118	1.5	110	998	2.5	104
小 企 業	1,104	-2.1	109	969	1.4	101

(3) 産業別にみた賃金

主な産業別に1時間当たり賃金をみると、男では、製造業、医療、福祉、サービス業（他に分類されないもの）が1,000円を超え、卸売・小売業、飲食店、宿泊業が900円台となっている。女では、医療、福祉、サービス業（他に分類されないもの）が1,000円を超え、卸売・小売業、飲食店、宿泊業が900円台、製造業が800円台となっている。（第15表）

第15表 短時間労働者の主な産業、性別1時間当たり賃金、対前年増減率及び産業間賃金格差

産業	男			女		
	1時間 当たり 賃金(円)	対前年 増減率 (%)	産業間 賃金格差 (産業計=100)	1時間 当たり 賃金(円)	対前年 増減率 (%)	産業間 賃金格差 (産業計=100)
産 業 計	1,071	-1.3	100	975	1.4	100
製 造 業	1,125	-1.1	105	876	-0.1	90
卸 売 ・ 小 売 業	984	0.2	92	921	1.4	94
飲 食 店 , 宿 泊 業	932	0.2	87	905	0.8	93
医 療 , 福 祉	1,261	-7.0	118	1,185	-0.2	122
サ ー ビ ス 業 (他に分類されないもの)	1,085	1.2	101	1,003	1.7	103

注：産業計には、上掲のほか、鉱業、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、金融・保険業、不動産業、教育、学習支援業、複合サービス事業を含む。

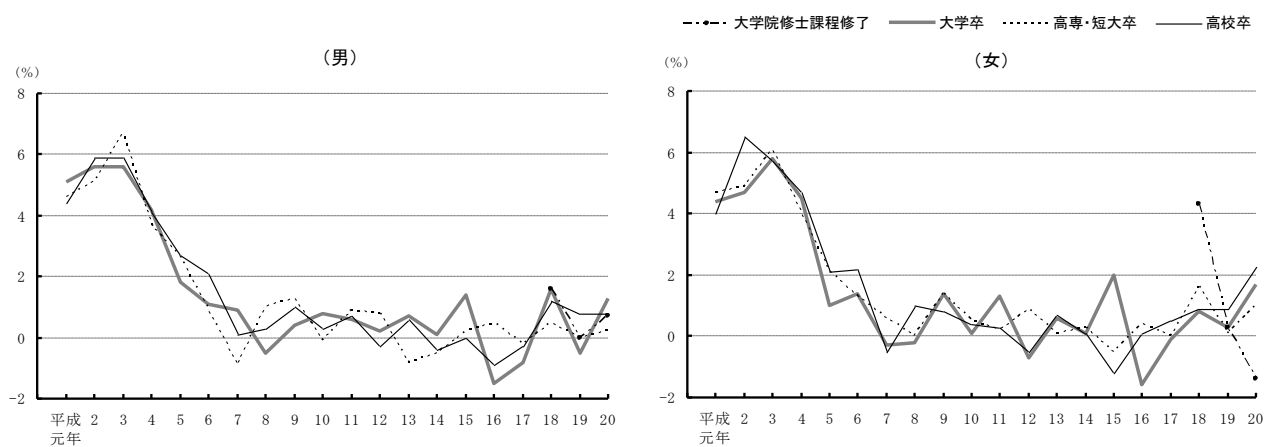
3 新規学卒者の初任給

(1) 学歴別にみた初任給

平成20年の初任給を高校卒以上の学歴別にみると、以下のとおりになっている。

男女計	大学院修士課程修了	225.9千円	(対前年増減率 0.4%)
	大学卒	198.7千円	(〃 1.5%)
	高専・短大卒	169.7千円	(〃 0.7%)
	高校卒	157.7千円	(〃 1.3%)
男	大学院修士課程修了	226.2千円	(対前年増減率 0.7%)
	大学卒	201.3千円	(〃 1.3%)
	高専・短大卒	171.6千円	(〃 0.2%)
	高校卒	160.0千円	(〃 0.8%)
女	大学院修士課程修了	223.6千円	(対前年増減率 -1.4%)
	大学卒	194.6千円	(〃 1.7%)
	高専・短大卒	168.6千円	(〃 1.0%)
	高校卒	154.3千円	(〃 2.3%)

第11図 性、学歴別初任給の対前年増減率の推移



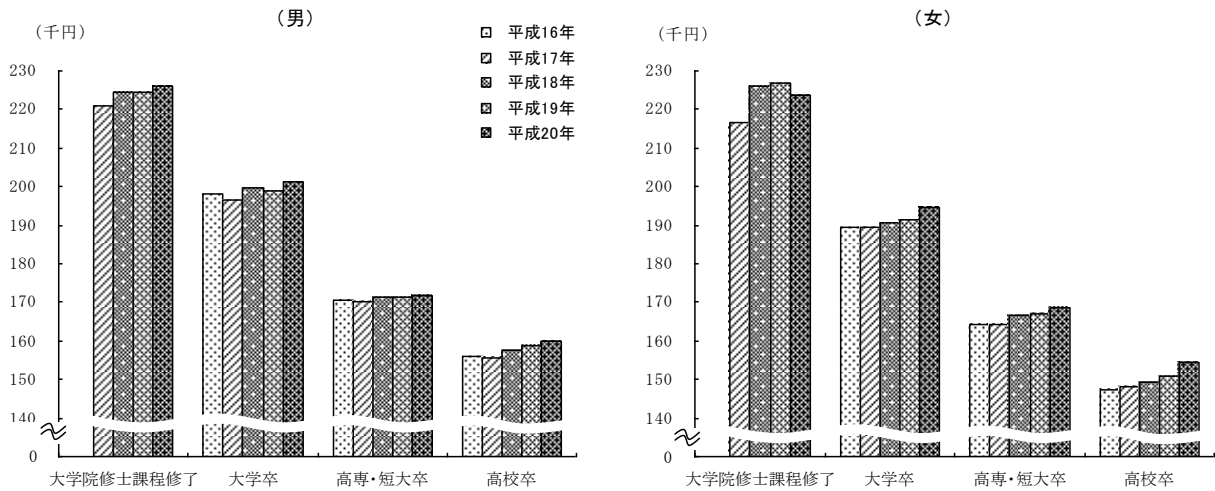
男女計では、各学歴で前年を上回っている。
これを男女別にみると、女の大学院修士課程修了を除くすべての学歴で、男女とも前年を上回っている。（第11図、第16表、第12図）

第16表 性、学歴別初任給の推移

年	男 女 計				男				女			
	大学院修士課程修了	大 学 卒	高専・短大卒	高 校 卒	大学院修士課程修了	大 学 卒	高専・短大卒	高 校 卒	大学院修士課程修了	大 学 卒	高専・短大卒	高 校 卒
平成 16年	千円 … (…)	千円 195.0 (-1.6)	千円 166.3 (0.6)	千円 152.6 (-0.2)	千円 … (…)	千円 198.3 (-1.5)	千円 170.7 (0.5)	千円 156.1 (-0.9)	千円 … (…)	千円 189.5 (-1.6)	千円 164.2 (0.4)	千円 147.2 (0.1)
17	220.4 (…)	193.9 (-0.6)	166.6 (0.2)	152.9 (0.2)	221.0 (…)	196.7 (-0.8)	170.3 (-0.2)	155.7 (-0.3)	216.6 (…)	189.3 (-0.1)	164.2 (0.0)	148.0 (0.5)
18	224.8 (2.0)	196.3 (1.2)	168.5 (1.1)	154.4 (1.0)	224.6 (1.6)	199.8 (1.6)	171.2 (0.5)	157.6 (1.2)	226.0 (4.3)	190.8 (0.8)	166.8 (1.6)	149.4 (0.9)
19	225.0 (0.1)	195.8 (-0.3)	168.5 (0.0)	155.7 (0.8)	224.6 (0.0)	198.8 (-0.5)	171.2 (0.0)	158.8 (0.8)	226.7 (0.3)	191.4 (0.3)	166.9 (0.1)	150.8 (0.9)
20	225.9 (0.4)	198.7 (1.5)	169.7 (0.7)	157.7 (1.3)	226.2 (0.7)	201.3 (1.3)	171.6 (0.2)	160.0 (0.8)	223.6 (-1.4)	194.6 (1.7)	168.6 (1.0)	154.3 (2.3)

注:1) ()内は、対前年増減率(%)である。
2) 大学院修士課程修了については、平成17年から調査している。

第12図 性、学歴別初任給の推移



(2) 企業規模別にみた初任給

企業規模別の初任給を学歴別にみると、大学卒では、男は大企業（常用労働者1,000人以上）で202.0千円、中企業（同100～999人）で201.5千円、小企業（同10～99人）で197.9千円、女は大企業で195.0千円、中企業で195.5千円、小企業で190.2千円となっており、いずれも前年を上回っている。また、高校卒では、男は大企業で161.3千円、中企業で157.8千円、小企業で162.3千円、女は大企業で157.9千円、中企業で154.3千円、小企業で151.3千円となっており、前年と同額の男の中企業を除き、前年を上回っている。

初任給の企業規模間格差（大企業＝100）をみると、大学卒では、男女とも中企業で100、小企業で98、高校卒では、男は中企業で98、小企業で101、女は中企業で98、小企業で96となっている。（第17表）

第17表 性、企業規模、学歴別初任給及び対前年増減率、企業規模間格差の推移

性、企業規模			大学院修士課程修了			大 学 卒			高専・短大卒			高 校 卒		
			初任給 (千円)		対前年 増減率 (%)	初任給 (千円)		対前年 増減率 (%)	初任給 (千円)		対前年 増減率 (%)	初任給 (千円)		対前年 増減率 (%)
			平成20年	19		平成20年	19		平成20年	19		平成20年	19	
初任給及び対前年増減率	男女計	企業規模計	225.9	225.0	0.4	198.7	195.8	1.5	169.7	168.5	0.7	157.7	155.7	1.3
		大 企 業	226.2	226.5	-0.1	199.1	197.0	1.1	176.6	173.8	1.6	160.4	157.8	1.6
		中 企 業	225.4	224.0	0.6	199.4	196.3	1.6	170.9	168.5	1.4	156.3	154.7	1.0
		小 企 業	224.5	205.6	9.2	194.4	190.2	2.2	163.9	166.1	-1.3	156.9	154.7	1.4
	男	企業規模計	226.2	224.6	0.7	201.3	198.8	1.3	171.6	171.2	0.2	160.0	158.8	0.8
		大 企 業	226.1	225.3	0.4	202.0	200.5	0.7	175.5	175.0	0.3	161.3	159.0	1.4
		中 企 業	226.8	224.3	1.1	201.5	198.8	1.4	171.5	169.6	1.1	157.8	157.8	0.0
		小 企 業	225.7	212.1	6.4	197.9	192.8	2.6	167.0	171.7	-2.7	162.3	160.0	1.4
	女	企業規模計	223.6	226.7	-1.4	194.6	191.4	1.7	168.6	166.9	1.0	154.3	150.8	2.3
		大 企 業	226.8	233.2	-2.7	195.0	192.1	1.5	177.3	172.7	2.7	157.9	154.5	2.2
		中 企 業	219.5	222.9	-1.5	195.5	192.2	1.7	170.4	167.5	1.7	154.3	150.5	2.5
		小 企 業	221.7	191.8	15.6	190.2	186.6	1.9	163.0	164.5	-0.9	151.3	148.8	1.7
企業規模間格差	男女計	中 企 業	100	99		100	100		97	97		97	98	
		小 企 業	99	91		98	97		93	96		98	98	
	男	中 企 業	100	100		100	99		98	97		98	99	
		小 企 業	100	94		98	96		95	98		101	101	
	女	中 企 業	97	96		100	100		96	97		98	97	
		小 企 業	98	82		98	97		92	95		96	96	

注：1） 常用労働者1,000人以上の企業を大企業、100～999人の企業を中企業、10～99人の企業を小企業としている。

2） 企業規模間格差は、大企業の初任給を100としている。

(3) 産業別にみた初任給

主要産業別の初任給を学歴別にみると、大学卒では、男は教育、学習支援業(213.5千円)が、女は情報通信業(202.6千円)がいずれも前年に引き続き最も高くなっている。高校卒では、男は情報通信業(169.8千円)が前年に引き続き、女はサービス業(159.1千円)が最も高くなっている。一方、大学卒では、男女とも運輸業(男190.5千円、女176.2千円)が、高校卒では、男女とも金融・保険業(男143.7千円、女144.9千円)が最も低くなっている。(第18表)

第18表 性、産業、学歴別初任給及び対前年増減率の推移

性、産業		大学院修士課程修了			大 学 卒			高専・短大卒			高 校 卒		
		初任給 (千円)		対前年 増減率(%)	初任給 (千円)		対前年 増減率(%)	初任給 (千円)		対前年 増減率(%)	初任給 (千円)		対前年 増減率(%)
		平成20年	19		平成20年	19		平成20年	19		平成20年	19	
男	産 業 計	225.9	225.0	0.4	198.7	195.8	1.5	169.7	168.5	0.7	157.7	155.7	1.3
	建 設 業	223.5	221.0	1.1	200.0	196.0	2.0	175.1	177.6	-1.4	163.6	159.8	2.4
	製 造 業	227.4	225.6	0.8	199.4	199.1	0.2	172.5	172.2	0.2	157.9	156.1	1.2
	情 報 通 信 業	216.8	224.9	-3.6	205.5	205.0	0.2	181.3	174.3	4.0	161.2	167.8	-3.9
	運 輸 業	210.5	213.6	-1.5	185.5	194.8	-4.8	166.5	166.1	0.2	157.4	160.1	-1.7
	卸 売 ・ 小 売 業	233.2	238.0	-2.0	201.8	197.3	2.3	168.2	167.9	0.2	158.5	155.5	1.9
	金 融 ・ 保 険 業	217.2	228.4	-4.9	190.6	185.1	3.0	158.1	156.7	0.9	144.7	142.7	1.4
	飲 食 店 ， 宿 泊 業	192.0	208.9	-8.1	190.5	186.6	2.1	164.0	163.8	0.1	156.6	151.5	3.4
	医 療 ， 福 祉	215.6	188.3	14.5	193.8	186.0	4.2	170.1	167.7	1.4	148.4	144.6	2.6
	教 育 ， 学 習 支 援 業	228.6	239.5	-4.6	202.2	200.4	0.9	170.7	173.4	-1.6	153.6	140.0	9.7
女	サ ー ビ ス 業 (他に分類されないもの)	235.7	224.8	4.8	202.3	199.8	1.3	167.4	164.8	1.6	160.1	157.4	1.7
	産 業 計	226.2	224.6	0.7	201.3	198.8	1.3	171.6	171.2	0.2	160.0	158.8	0.8
	建 設 業	223.0	220.6	1.1	201.7	197.8	2.0	176.8	179.3	-1.4	165.0	160.6	2.7
	製 造 業	227.6	225.8	0.8	200.5	199.9	0.3	175.6	175.0	0.3	159.7	158.1	1.0
	情 報 通 信 業	216.6	223.3	-3.0	206.8	205.4	0.7	182.2	177.0	2.9	169.8	175.5	-3.2
	運 輸 業	211.2	213.2	-0.9	190.5	196.5	-3.1	167.3	162.9	2.7	158.5	163.5	-3.1
	卸 売 ・ 小 売 業	233.7	222.0	5.3	202.0	198.4	1.8	168.1	168.0	0.1	158.7	159.4	-0.4
	金 融 ・ 保 険 業	215.9	228.9	-5.7	196.1	190.9	2.7	169.3	166.8	1.5	143.7	156.2	-8.0
	飲 食 店 ， 宿 泊 業 *	170.7	206.0	-17.1	193.4	189.2	2.2	164.2	164.0	0.1	161.6	153.6	5.2
	医 療 ， 福 祉	213.6	187.8	13.7	192.7	179.7	7.2	167.4	173.8	-3.7	150.1	149.7	0.3
計	教 育 ， 学 習 支 援 業	231.5	246.8	-6.2	213.5	209.5	1.9	173.6	166.9	4.0	158.5	145.3	9.1
	サ ー ビ ス 業 (他に分類されないもの)	237.3	226.3	4.9	206.1	203.8	1.1	173.7	168.2	3.3	161.2	160.3	0.6
	産 業 計	223.6	226.7	-1.4	194.6	191.4	1.7	168.6	166.9	1.0	154.3	150.8	2.3
	建 設 業	227.3	225.7	0.7	192.4	190.1	1.2	170.4	170.5	-0.1	149.1	150.5	-0.9
	製 造 業	225.1	224.6	0.2	196.3	196.7	-0.2	167.7	168.5	-0.5	153.2	151.7	1.0
	情 報 通 信 業	218.1	233.7	-6.7	202.6	204.1	-0.7	179.2	169.2	5.9	154.4	158.3	-2.5
	運 輸 業	203.9	217.2	-6.1	176.2	191.2	-7.8	165.9	167.9	-1.2	153.8	151.0	1.9
	卸 売 ・ 小 売 業	225.5	262.0	-13.9	201.4	195.4	3.1	168.4	167.8	0.4	158.4	153.2	3.4
	金 融 ・ 保 険 業	223.7	225.0	-0.6	185.4	180.3	2.8	157.7	156.4	0.8	144.9	141.5	2.4
	飲 食 店 ， 宿 泊 業	197.2	* 213.1	-7.5	188.2	184.7	1.9	163.9	163.7	0.1	153.8	150.3	2.3
女	医 療 ， 福 祉	217.1	189.1	14.8	194.4	189.0	2.9	170.7	166.5	2.5	148.1	143.7	3.1
	教 育 ， 学 習 支 援 業	223.8	235.2	-4.8	197.3	196.8	0.3	170.6	173.7	-1.8	149.0	139.6	6.7
	サ ー ビ ス 業 (他に分類されないもの)	229.1	219.2	4.5	196.8	193.0	2.0	162.0	162.1	-0.1	159.1	153.9	3.4

注：産業計には、上掲の産業のほか、鉱業、電気・ガス・熱供給・水道業、不動産業及び複合サービス事業を含む。

(4) 初任給の分布

初任給の分布をみると、男は、大学卒は20万円台が42.7%、高校卒は16万円台が38.8%と最も高くなっている。女は、大学卒は20万円台が28.1%、高校卒は15万円台が27.5%、16万円台が25.1%となっている。

また、分布の広がりを見ると、男女とも高専・短大卒が他の学歴より大きくなっている。(第19表)

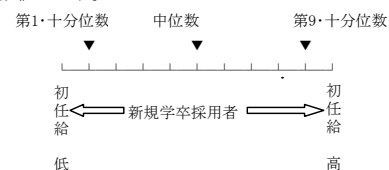
第19表 初任給の階級、性、学歴別新規学卒採用者数割合

初任給の階級	男 女 計				男				女			
	大学院 修士課程 修了	大 学 卒	高専・短大卒	高 校 卒	大学院 修士課程 修了	大 学 卒	高専・短大卒	高 校 卒	大学院 修士課程 修了	大 学 卒	高専・短大卒	高 校 卒
計 千円	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
～ 109.9				0.1				0.1				0.2
110.0 ～ 119.9				0.6				0.3				1.1
120.0 ～ 129.9			1.1	2.4			0.9	1.4			1.2	4.0
130.0 ～ 139.9			3.3	7.4			2.5	5.0			3.8	11.0
140.0 ～ 149.9		1.3	11.8	13.0		0.7	6.2	9.6		2.2	15.0	18.2
150.0 ～ 159.9		1.6	13.2	27.9		1.0	11.3	28.2		2.6	14.4	27.5
160.0 ～ 169.9	0.2	3.5	20.4	33.4	0.1	2.2	22.0	38.8	1.1	5.5	19.5	25.1
170.0 ～ 179.9	0.7	10.3	21.7	8.5	0.7	7.2	26.5	10.0	1.1	15.3	18.9	6.1
180.0 ～ 189.9	1.2	9.6	15.1	3.8	1.2	8.0	19.7	3.5	1.5	12.2	12.5	4.4
190.0 ～ 199.9	2.0	15.8	5.8	2.9	1.5	15.7	5.4	3.2	4.7	15.9	6.0	2.5
200.0 ～ 209.9	14.4	37.0	2.1		14.2	42.7	2.1		15.4	28.1	2.2	
210.0 ～ 219.9	10.2	9.5	3.6		9.9	11.0	2.1		12.3	7.2	4.4	
220.0 ～ 229.9	43.5	6.1	1.8		44.8	5.7	1.4		35.7	6.7	2.1	
230.0 ～ 239.9	13.8	2.2			14.1	2.5			11.8	1.6		
240.0 ～ 249.9	7.7	1.1			7.5	1.2			9.1	0.9		
250.0 ～ 259.9	2.0	0.9			1.8	0.8			3.0	1.0		
260.0 ～ 299.9	3.9	0.6			3.8	0.7			4.4	0.6		
300.0～	0.4	0.4			0.4	0.5			0.2	0.3		
平 均 額 (千円)	225.9 (225.0)	198.7 (195.8)	169.7 (168.5)	157.7 (155.7)	226.2 (224.6)	201.3 (198.8)	171.6 (171.2)	160.0 (158.8)	223.6 (226.7)	194.6 (191.4)	168.6 (166.9)	154.3 (150.8)
第1・十分位数(千円)	205.8 (206.1)	173.1 (171.9)	145.1 (145.8)	139.3 (136.4)	206.0 (206.9)	177.1 (174.2)	150.2 (150.6)	142.8 (143.0)	201.4 (197.2)	169.7 (167.5)	143.5 (143.6)	135.0 (130.6)
中 位 数 (千円)	226.7 (224.4)	201.1 (199.1)	170.0 (167.9)	159.5 (156.8)	227.0 (224.3)	201.9 (200.7)	171.8 (171.4)	161.0 (159.5)	224.2 (225.8)	197.4 (191.4)	167.1 (165.4)	155.7 (152.6)
第9・十分位数(千円)	243.2 (243.0)	221.4 (217.9)	193.2 (192.3)	173.6 (172.6)	243.0 (240.4)	221.7 (219.3)	191.2 (193.6)	174.3 (174.9)	244.5 (253.0)	221.0 (215.0)	196.2 (191.2)	172.2 (167.2)
十 分 位 分 散 係 数	0.08 (0.08)	0.12 (0.12)	0.14 (0.14)	0.11 (0.12)	0.08 (0.07)	0.11 (0.11)	0.12 (0.13)	0.10 (0.10)	0.10 (0.12)	0.13 (0.12)	0.16 (0.14)	0.12 (0.12)

注：1) 分位数とは、分布の形を示す値である。具体的には、新規学卒採用者を初任給の低い者から高い者へと一列に並べて、低い方から全体の10分の1番目に該当する者の初任給が第1・十分位数、高い方から数えて全体の10分の1番目に該当する者の初任給が第9・十分位数、低い方(あるいは高い方)から数えて全体の2分の1番目(真ん中)に該当する者の初任給が中位数である。

2) 十分位分散係数とは、分布の広がりを示す指標の一つであり、次の算式により計算された数値をいう。
一般に、その値が小さいほど分布の広がりの程度が小さいことを示す。

$$\text{十分位分散係数} = \frac{\text{第9・十分位数} - \text{第1・十分位数}}{2 \times \text{中位数}}$$



3) () 内は、平成19年の数値である。